

第7編 橫壁勝沼Ⅱ遺跡

第1章 既往の調査

これまで横壁勝沼II遺跡では、今回の町営土地改良事業に伴う発掘調査を行うに当たり発掘調査範囲を確定するための試掘調査が行われたのみであり、本調査は今回が最初の発掘調査事例である。平成29年10月に行われた試掘調査の結果時期不明の陥し穴が検出され、本調査が行われることとなった。

第2章 調査の経過

横壁勝沼II遺跡の調査は、平成30年5月16日から同年8月30日まで実施した。

5月16日～17日、試掘トレレンチ精査を行う。5月21日・23日、発掘調査地点の地権者と周辺住民に挨拶に伺う。5月28日、器材庫プレハブを搬入し、安全看板・安全柵の設置、器材の搬入を行う。

6月7日、調査範囲の確認・設定、試掘トレレンチ精査を行う。調査区外に堆土置場を確保できないため、調査区を北部・中央部・南部に3分割し、反転して北部から調査を行うこととした。6月13日、北部の表土掘削を開始する。6月26日、北部の表土掘削が終了し、遺構検出を開始する。

7月13日、北部の空中写真撮影を行う。7月19日、北部の調査が終了した。7月23日、北部の埋め戻しを開始し、26日には中央部の表土掘削を開始する。

8月3日、中央部の表土掘削が終了し、遺構検出・掘削を開始する。8月17日、中央部の空中写真撮影を行う。8月22日に中央部の調査が終了し、南部の表土掘削を開始する。8月24日、南部表土掘削が終了する。8月27日には南部遺構検出・掘削を開始する。8月30日、南部の空中写真撮影を実施し、南部の調査が終了した。発掘器材を搬出し、本遺跡の発掘調査は終了した。

第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、A地点（北部南壁）・B地点（中央部南壁）・C地点（南部南西壁）の3箇所で確認した。基本層序は以下の通りである。

第I層 黒褐色土：表土である。粘性は弱く、しまりのある部分もあれば、ない部分もある。

YPk ($\phi 0.1 \sim 2.0\text{cm}$) を微量含む。

第II層 暗褐色土：粘性はあり、しまりはやや弱い。砂礫 ($\phi 0.2 \sim 7.0\text{cm}$) を少量含む。

第III層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりのある部分もあれば、やや弱い部分もある。YPk ($\phi 0.1 \sim 3.0\text{cm}$) を少量含み、ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 3.0\text{cm}$) を微量含む。

第IV層 暗褐色土：粘性弱く、しまりはやや弱い。YPk ($\phi 0.1 \sim 1.5\text{cm}$) を少量含む。

第V層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりのある部分もあれば、弱い部分もある。YPk ($\phi 0.2 \sim 1.0\text{cm}$) を微量含む。

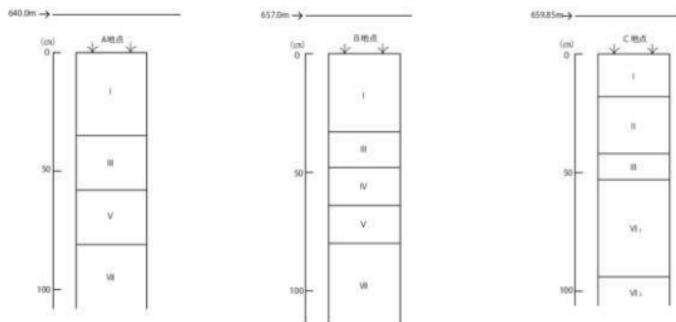
第VI₁層 にぶい黄褐色土：ローム漸移層である。粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk ($\phi 0.1 \sim 1.5\text{cm}$)・砂礫 ($\phi 0.2 \sim 2.5\text{cm}$) を微量含む。試掘調査 60～62号トレレンチの10層を細分したものである。

第VI₂層 にぶい黄褐色土：ローム漸移層である。粘性は弱く、しまりはある。YPk ($\phi 0.2 \sim 1.0\text{cm}$)・砂礫 ($\phi 0.2 \sim 1.5\text{cm}$) を微量含む。試掘調査 60～62号トレレンチの10層を細分したものである。

第VII層 黄褐色土：ローム層である。粘性は弱く、しまりはある。YPk ($\phi 0.2 \sim 1.5\text{cm}$) を微量含む。



第273図 調査区位置図(1/2,500)

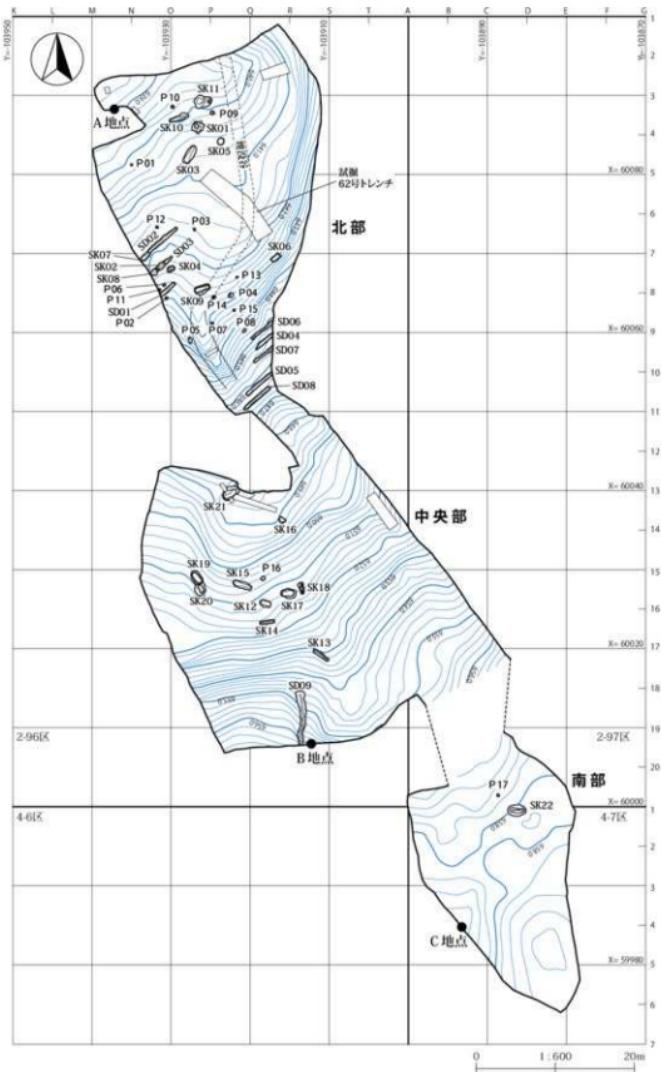


第274図 基本土層柱状図(1/20)

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

横壁勝沼II遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字勝沼に所在する平安時代の遺構を主体とする遺跡である。吾妻川の支流である深沢と白岩沢に挟まれた吾妻川右岸の中位段丘面の南方、丸岩山の北西面の山脚地帯に位置する。吾妻川支流の東沢と白岩沢に挟まれた馬の背状の尾根の西面に立地する。調査区の南北方向に谷地形が走っており、すぐ西側を東沢が流れれる。調査区東側には周囲の山からの礫混じりの崩落土が厚く堆積している。南から北へ向かって下る傾斜地で、標高は 638.6 m~658.8 m である。現況は畠地である。



第275図 調査区全体図(1/600)

今回の発掘調査は横壁勝沼II遺跡の第1次調査にあたる。調査範囲は遺跡の北東約2分の1にあたり、大字横壁字勝沼877他に所在する。便宜上調査区を北部・中央部・南部の3つに分けて調査を行なったが、中央部と南部の境界を道路が横断している。この道を下った東側の低地が横壁勝沼III遺跡である。

今回の発掘調査で確認された遺構は、平安時代の陥し穴12基、時期不明の土坑10基、ピット17基、溝9条である。遺構は北部を中心分布しており、南部にはほとんど検出されなかった。出土遺物の種類は、繩文土器、弥生土器、土師器、鉄製品、陶磁器、石器で、その数量はテンバコで0.5箱分であった。

第2節 平安時代の遺構と遺物

(1) 陥し穴

上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する陥し穴は平安時代に帰属すると考えられる。

SK03(第276図／PL 38)

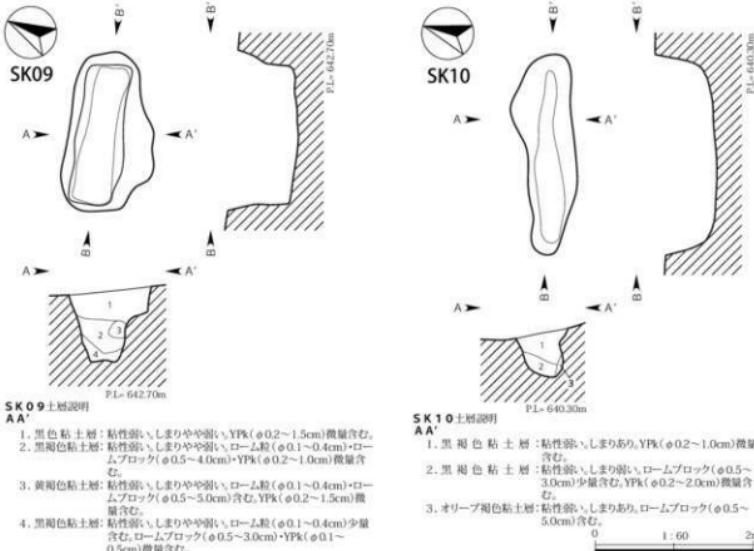
位置 2-96区O-4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層はにぶい黄褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が不整長方形を呈する。規模は長軸245cm、短軸105cm、深さ50cm。 **主軸方位** N-26°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK06(第276図／PL 39)

位置 2-96区Q-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上部は削平されていると考えられる。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 長方形を呈する。規模は長軸127cm、短軸60cm、深さ50cm。 **主軸方位** N-50°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。



第276図 SK03-06実測図(1/60)



第277図 SK09-10実測図(1/60)

SK09 (第277図／PL 38)

位置 2-96区O-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色～黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整梢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸205cm、短軸106cm、深さ90cm。 **主軸方位** N-71°-E **壁面** 南壁は階段状に、他は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器の破片3点と、古墳時代と考えられる土器1点が出土した。うち繩文土器2点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** なし。

SK10 (第277図)

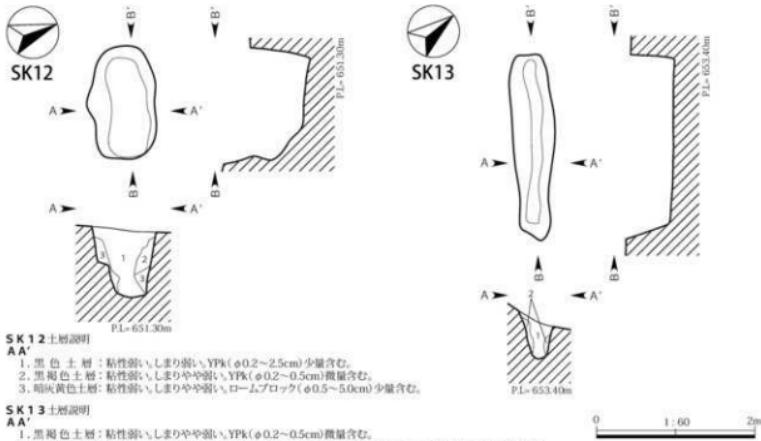
位置 2-96区O-3 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整長梢円形、下面形が不整細長方形を呈する。規模は長軸252cm、短軸62cm、深さ57cm。 **主軸方位** N-74°-E **壁面** 下位はほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 細長い平面形状から、平安時代末～中世に帰属すると考えられる。

SK12 (第278図／PL 39)

位置 2-96区Q-15 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整梢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸142cm、短軸84cm、深さ83cm。 **主軸方位** N-71°-W **壁面** 南西壁は階段状に、他は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK13 (第278図／PL 39)

位置 2-96区R-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上部は削平されていると考えられる。 **覆土**



第278図 SK12・13実測図(1/60)

黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 細長方形を呈する。規模は長軸232cm、短軸37cm、深さ45cm。 **主軸方位** N-53°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。

備考 細長い平面形状から、平安時代末～中世に帰属すると考えられる。

SK14 (第279図／PL 39)

位置 2-96区Q-16 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上部は削平されていると考えられる。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 細長方形を呈する。規模は長軸188cm、短軸42cm、深さ37cm。 **主軸方位** N-84°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** やや凹凸がある。 **遺物** なし。

備考 細長い平面形状から、平安時代末～中世に帰属すると考えられる。

SK15 (第279図／PL 39)

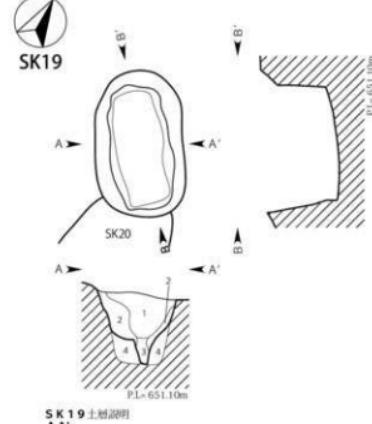
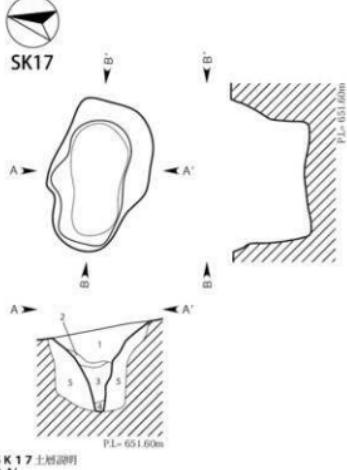
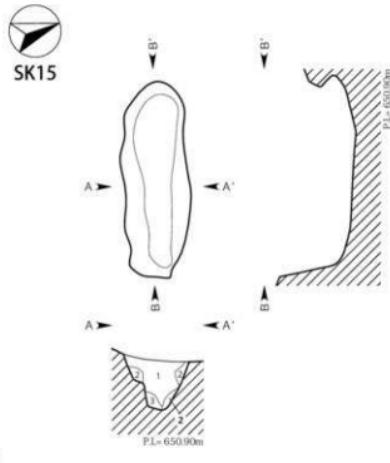
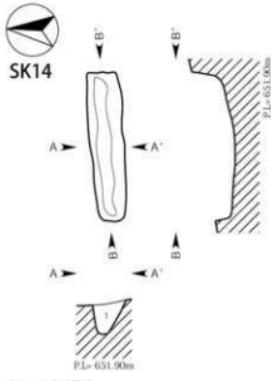
位置 2-96区P-15 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整長楕円形、下面形が不整細隔丸長方形を呈する。規模は長軸244cm、短軸82cm、深さ60cm。 **主軸方位** N-72°-W **壁面** 北東壁は外傾して立ち上がり、南東側はオーバーハングする。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 細長い平面形状から、平安時代末～中世に帰属すると考えられる。

SK17 (第279図／PL 40)

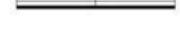
位置 2-96区Q-15 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整楕円形、下面形が不整隔丸長方形を呈する。規模は長軸190cm、短軸100cm、深さ105cm。 **主軸方位** N-84°-E **壁面** 下位は貼壁が認められる。下位はほぼ垂直に、上位は大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK19 (第279図／PL 40)

位置 2-96区O-15 **重複関係** SK20と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土**



横堀勝沼日遺跡

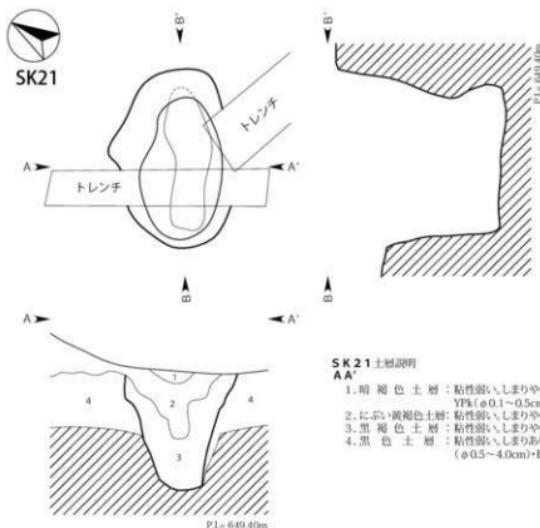
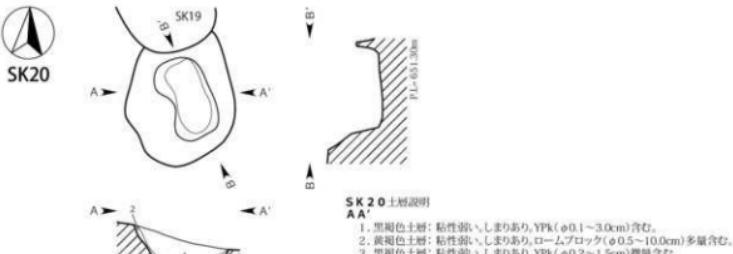


第279図 SK14・15・17・19実測図(1/60)

黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸186cm、短軸110cm、深さ87cm。 主軸方位 N-40°-W 壁面 下位は貼壁が認められる。下位はほぼ垂直に、上位は貼壁の段差を経て立ち上がる。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 なし。

SK20(第280図／PL 40)

位置 2-96区O-15 重複関係 SK19と重複し、本遺構の方が古い。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が楕円形、下面形が不整隅丸長方形を呈する。規模は長軸138cm以上、短軸129cm、深さ60cm。 主軸方位 N-27°-W 壁面 大きく外傾して立ち上がる。 底面 やや凹凸がある。 遺物 土師器片1点が出土したが、図示しなかった。 備考 なし。



横壁勝沼日遺跡

第280図 SK20・21実測図(1/60)

SK21（第280図）

位置 2-96区P-12・13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好だが、調査区外の北東方向に延びている。 **覆土** 上層はにぶい黄褐色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸225cm、短軸162cm、深さ150cm。 **主軸方位** N-58°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺構はさらに北東方向に延びていたが、調査区境界の壁面が迫っていたため、安全面を考慮し途中で掘削を中止した。

第3節 時期不明の遺構と遺物

（1）土坑

形態に特徴がなく出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SK01（第281図）

位置 2-96区O-3 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整方形を呈する。規模は長軸139cm、短軸137cm、深さ87cm以上。 **主軸方位** N-75°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 途中で掘削を中止したため不明。 **遺物** なし。 **備考** 遺構中央に巨礫が検出されたため、安全面を考慮し途中で掘削を中止した。

SK02（第281図）

位置 2-96区N-7 **重複関係** SD03と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸115cm、短軸74cm、深さ52cm。 **主軸方位** N-49°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK04（第281図）

位置 2-96区O-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** オリーブ褐色～暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸104cm、短軸64cm、深さ83cm。 **主軸方位** N-58°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK05（第281図）

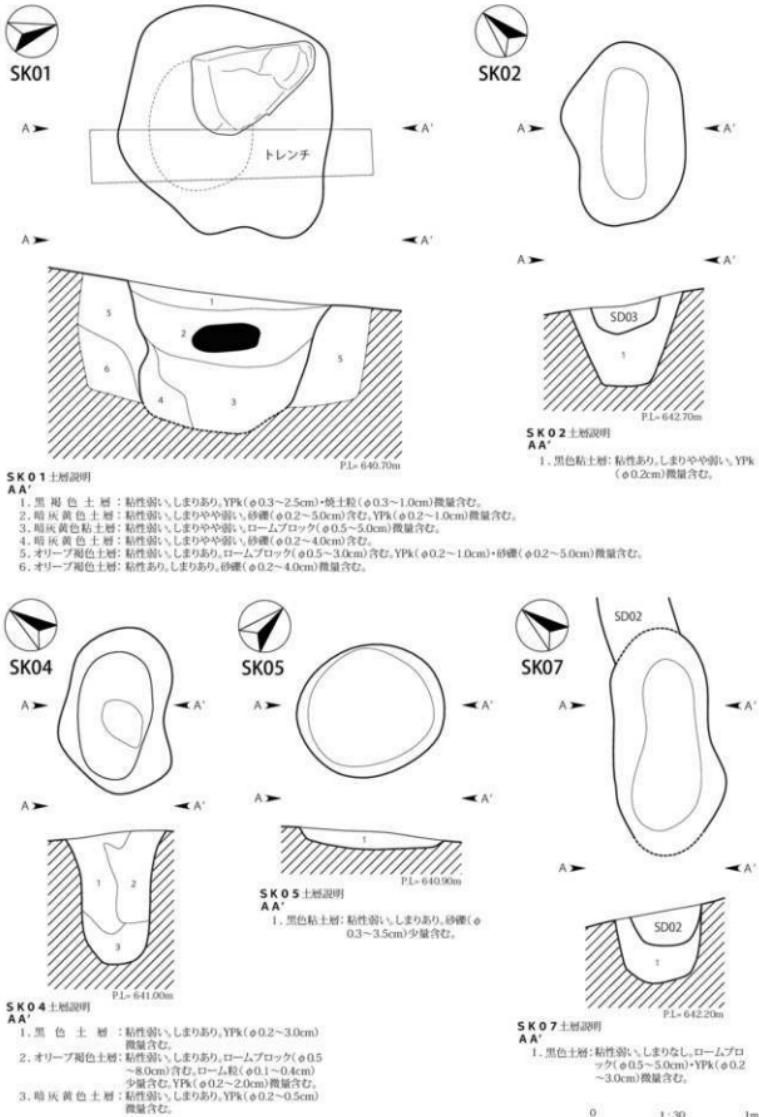
位置 2-96区P-4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸93cm、短軸82cm、深さ11cm。 **主軸方位** N-29°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸状を呈する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK07（第281図）

位置 2-96区N-7 **重複関係** SD02と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸推定144cm、短軸70cm、深さ44cm。 **主軸方位** N-50°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK08（第282図）

位置 2-96区N-7 **重複関係** SD03と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸推定93cm、短軸80cm、深さ26cm。 **主軸方位** N-49°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。



第281図 SK01・02・04・05・07実測図(1/30)

備考 なし。

SK11 (第 282 図)

位置 2-96 区 O-3 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整椭円形を呈する。規模は長軸 215cm、短軸 166cm、深さ 79cm。 **主軸方位** N-90°
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 西に向かって下る。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK16 (第 282 図)

位置 2-96 区 Q-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整椭円形を呈する。規模は長軸 90cm、短軸 63cm、深さ 33cm。 **主軸方位** N-47°-W
壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 中央がやや窪む。 **遺物** 土師器片 1 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。 **備考** なし。

SK18 (第 283 図)

位置 2-96 区 R-15 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整椭円形を呈する。規模は長軸 150cm、短軸 72cm、深さ 42cm。 **主軸方位** N-11°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK22 (第 283 図 / PL 40)

位置 4-7 区 C-1 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 椭円形を呈する。規模は長軸 228cm、短軸 138cm、深さ 53cm。 **主軸方位** N-89°-E
壁面 緩やかな V 字状に立ち上がる。 **底面** 中央が V 字状に窪む。 **遺物** なし。 **備考** なし。

(2) 溝

SD01 (第 284 図)

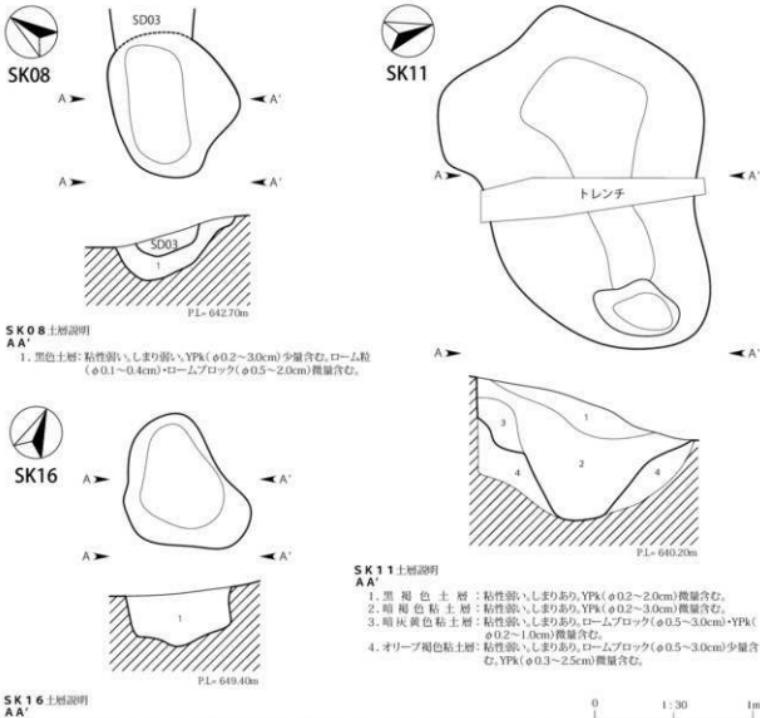
位置 2-96 区 N-O-7・8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 西側は調査区外となるが、概ね良好である。
覆土 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 2.4 m 以上、幅 45cm、深さ 18cm。 **主軸方位** N-48°-E
遺物 なし。 **備考** SD01 ~ SD03 は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD02 (第 284 図)

位置 2-96 区 N-O-6・7 **重複関係** SK07 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 南西方
向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長
さ 5.3 m 以上、幅 52cm、深さ 22cm。 **主軸方位** N-48°-E **遺物** なし。 **備考** SD01 ~ SD03 は全
て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時
期は不明である。

SD03 (第 284 図)

位置 2-96 区 N-7 **重複関係** SK02・08 と重複し、SK08 より古く SK02 より新しい。 **遺存状態**
良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 2.9 m 以上、幅 52cm、深さ 17cm。 **主軸**
方位 N-49°-E **遺物** なし。 **備考** SD01 ~ SD03 は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、畑
跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。



第282図 SK08・11・16実測図(1/30)

SD04 (第284図)

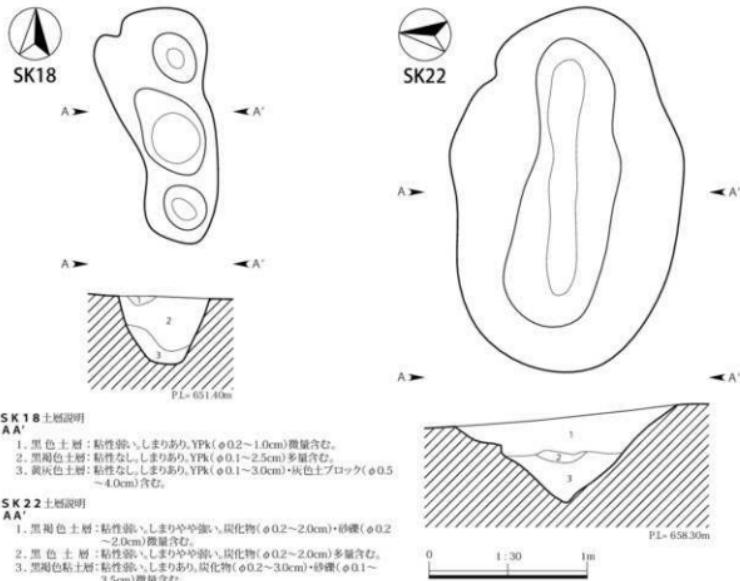
位置 2-96区Q-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東方向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 2.9 m以上、幅 54cm、深さ 14cm。 **主軸方位** N-50°-E **遺物** なし。 **備考** SD04～SD08は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、烟跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD05 (第284図)

位置 2-96区P・Q-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東方向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 4.3 m以上、幅 50cm、深さ 7cm。 **主軸方位** N-50°-E **遺物** なし。 **備考** SD04～SD08は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、烟跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD06 (第284図)

位置 2-96区Q-8・9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東方向の調査区外にまで延びているが、概ね



第283図 SK18-22実測図(1/30)

良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 3.5 m以上、幅 54cm、深さ 10cm。

主軸方位 N-53°-E **遺物** なし。 **備考** SD04～SD08は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、烟跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD07 (第285図)

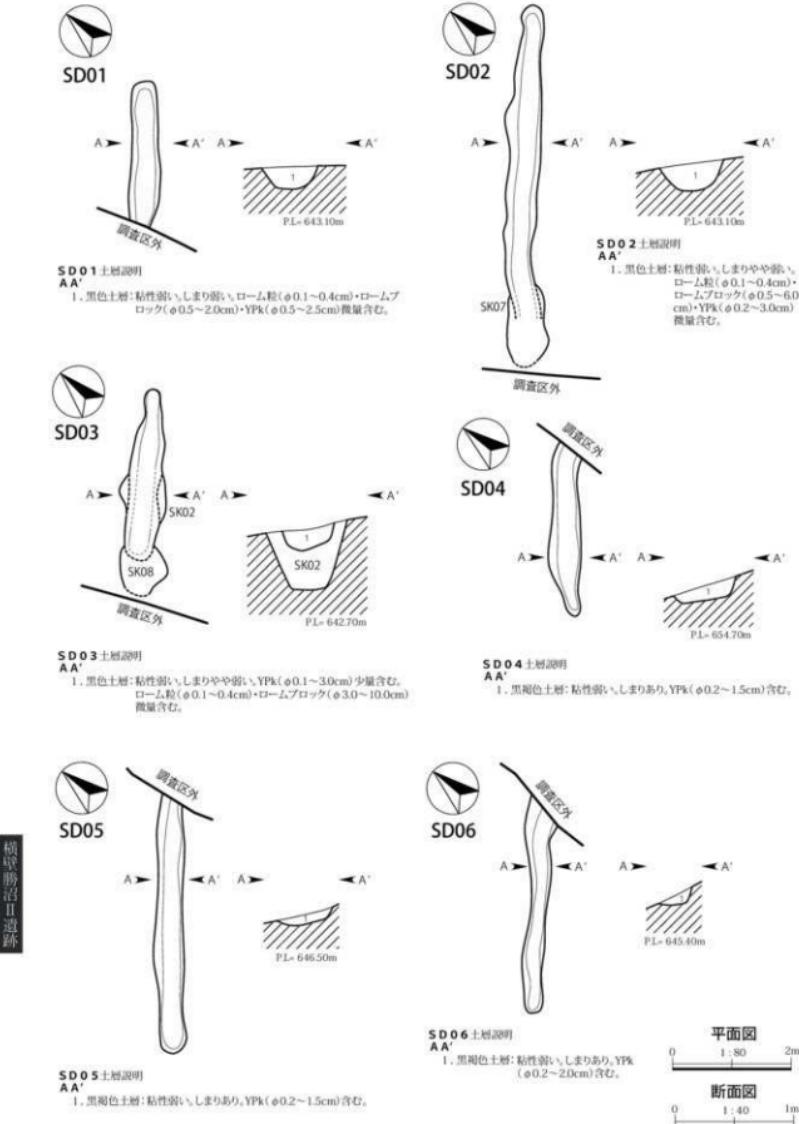
位置 2-96区Q-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東方向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 3 m以上、幅 62cm、深さ 8cm。 **主軸方位** N-52°-E **遺物** なし。 **備考** SD04～SD08は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、烟跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD08 (第285図)

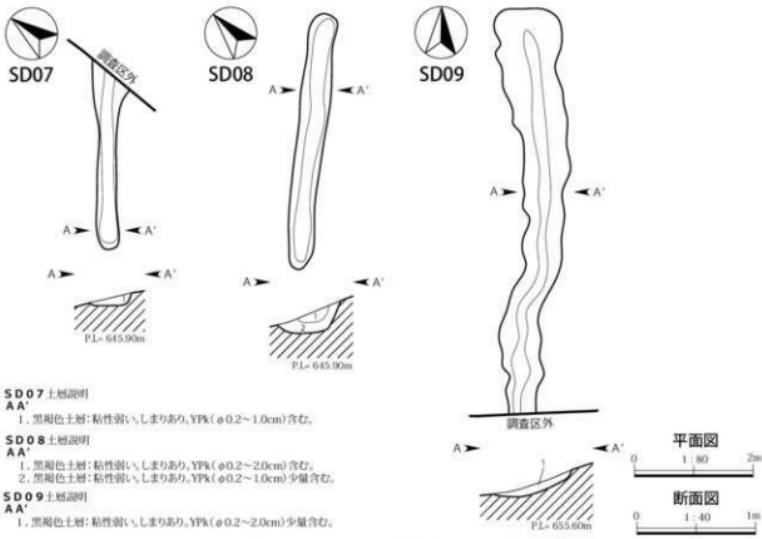
位置 2-96区P・Q-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 4.3 m以上、幅 50cm、深さ 19cm。 **主軸方位** N-49°-E **遺物** なし。 **備考** SD04～SD08は全て同じ方向でほぼ等間隔に並ぶことから、烟跡の施肥溝である可能性がある。出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SD09 (第285図)

位置 2-96区R-18・19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南方向の調査区外にまで延びているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 6.9 m以上、幅 114cm、深さ 7cm。



第284図 SD01～06実測図(1/40・1/80)



第285図 SD07~09実測図(1/40・1/80)

主軸方位 N-1°-W 遺物 なし。備考

地形の傾斜に沿って走行する自然流路の可能性がある。

(3) ピット (第40表)

今回の発掘調査では、ピットは17基確認された。いずれも時期を特定することは困難であるため、全て時期不明とした。建物の柱穴と考えられるものは確認されなかった。全てのピットの平面形や規模などの情報は、第40表に記載した。

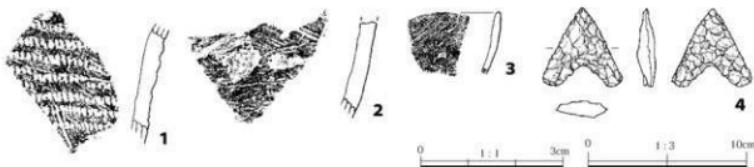
第40表 横壁勝沼II遺跡ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P01	2-96区M-4	楕円形	27	20	10	B	
P02	2-96区N-8	楕円形	36	30	22	A	
P03	2-96区O-5	楕円形	34	24	12	B	
P04	2-96区P-8	楕円形	70	56	18	A	
P05	2-96区O-9	楕円形	78	38	10	A	
P06	2-96区N-7	楕円形	41	30	14	A	
P07	2-96区P-8	楕円形	34	20	22	A	
P08	2-96区P-8	楕円形	49	31	36	B	
P09	2-96区P-3	円形	52	48	8	B	
P10	2-96区O-3	円形	48	42	12	B	
P11	2-96区N-7	楕円形	38	20	34	A	
P12	2-96区N-6	楕円形	48	28	12	A	
P13	2-96区P-7	円形	24	22	20	B	
P14	2-96区P-8	楕円形	50	37	44	B	
P15	2-96区P-8	円形	28	27	18	B	
P16	2-96区Q-15	長方形	53	44	12	B	
P17	2-97区C-20	楕円形	47	31	108	B	

※ A: 黒色土 B: 黒褐色土

第4節 遺構外出土遺物 (第286図/第41表/PL 40)

ここでは、調査区表土および確認面出土遺物、遺構から出土したが遺構に伴うものではないと判断されたものを掲載する。遺構外出土遺物は近現代の陶器の他、弥生土器や縄文時代の石器が出土している。土坑から出土した縄文土器2点と、表土から出土した弥生土器と石器を各1点図示した。



第286図 遺構外出土遺物実測図(1/1・1/3)

第5章 まとめ

今回発掘調査を行なった横壁勝沼II遺跡では、平安時代の陥し穴12基、時期不明の土坑10基、ピット17基、溝9条が確認された。南部には周囲の山からの崩落土が厚く堆積しており、土坑・ピットがそれぞれ1基ずつ検出されたのみである。

本遺跡では住居は検出されなかったため、居住域ではなく狩獵地として利用されていたと考えられる。隣接する横壁勝沼III遺跡では10世紀代と考えられる住居跡が検出されている。集落と狩獵域が分かれており、横壁勝沼III遺跡に居住していた人々が当遺跡を狩獵地として利用していたのであろうか。陥し穴の主軸方向や配置には特に規則性は見られなかった。また、当地域においては気候条件から見て1つの陥し穴の存続期間は1年以内であり、再利用もされなかつたと推定されている（石田2008）。そうであるとすれば、本遺跡の狩獵地としての継続期間は長くても10年前後になるが、実際には同時期に複数の陥し穴が造営されたと考えられ、継続期間はもっと短かったと推定される。平安時代の住居跡に加えて多数の陥し穴を検出した近隣の上野I・II遺跡との関連も併せて検討したい。

出土遺物は少なく、時期を特定できる遺物も出土しなかった。遺構からの出土遺物には縄文土器と土師器が多いが、縄文土器は周辺の遺物包含層からの流れ込みと考えられる。土師器も小破片ばかりで、時期を特定するには至らなかった。その他近現代のものと見られる釘がピットから出土している。遺構外の遺物では近世の陶磁器がほとんどであるが、石礫や弥生土器の破片も出土している。弥生時代の遺構・遺物は今回報告する上野I・II遺跡でも検出されている。かつて長野原町ではあまり知られていなかった弥生時代の資料は近年の調査の進展に伴い増加しており、今後の調査によってさらに解明が進むであろう。

参考文献

石田真 2004 「群馬県北西部における古代の陥し穴の構築時期をめぐって——長野原町の事例を中心として——」

『研究紀要22』(財)群馬文

石田真 2008 「群馬県北西部における古代の陥し穴の意義」『ぐんま史料研究 第25号』群馬県立書館

第41表 横壁勝沼II遺跡出土遺物観察表

遺構外出土遺物観察表

排岡No	回復No	形態	法面(高さ/幅/底径)(cm)	特徴(形態・手法等)	造成	削土・材質等	色調(表面/内部)	備考
286- 1	40	縄文土器 ・深鉢	(7.5) / - / -	外側に斜面体による押し縄文を施す。内面指須江瓶。早期復平(子母口)。	良好	繩維・灰石・石英・赤褐色砂粒・白色砂粒	褐色/に赤い黄褐色	鏡片資料(全体)
286- 2	40	縄文土器 ・深鉢	(5.9) / - / -	外側は貝殻条板文か。内面指須江瓶。早期後平(縄ヶ島式)。	良好	繩維・灰石・石英・赤褐色砂粒・白色砂粒	に赤い黄褐色/に赤い黄褐色	鏡片資料(全体)
286- 3	40	弥生土器 ・壺か	(3.8) / - / -	外側に細密繩文による施文。單頭R1か。器厚は薄く綿まる。内面指須江瓶。	良好	石英・赤色砂粒	に赤い黄褐色	鏡片資料(口部)
286- 4	40	剥片石器類 ・石礫	長1.7 / 幅1.5 / 厚0.4	重量0.6g。凹基。	-	黒曜石	-	完存。表土